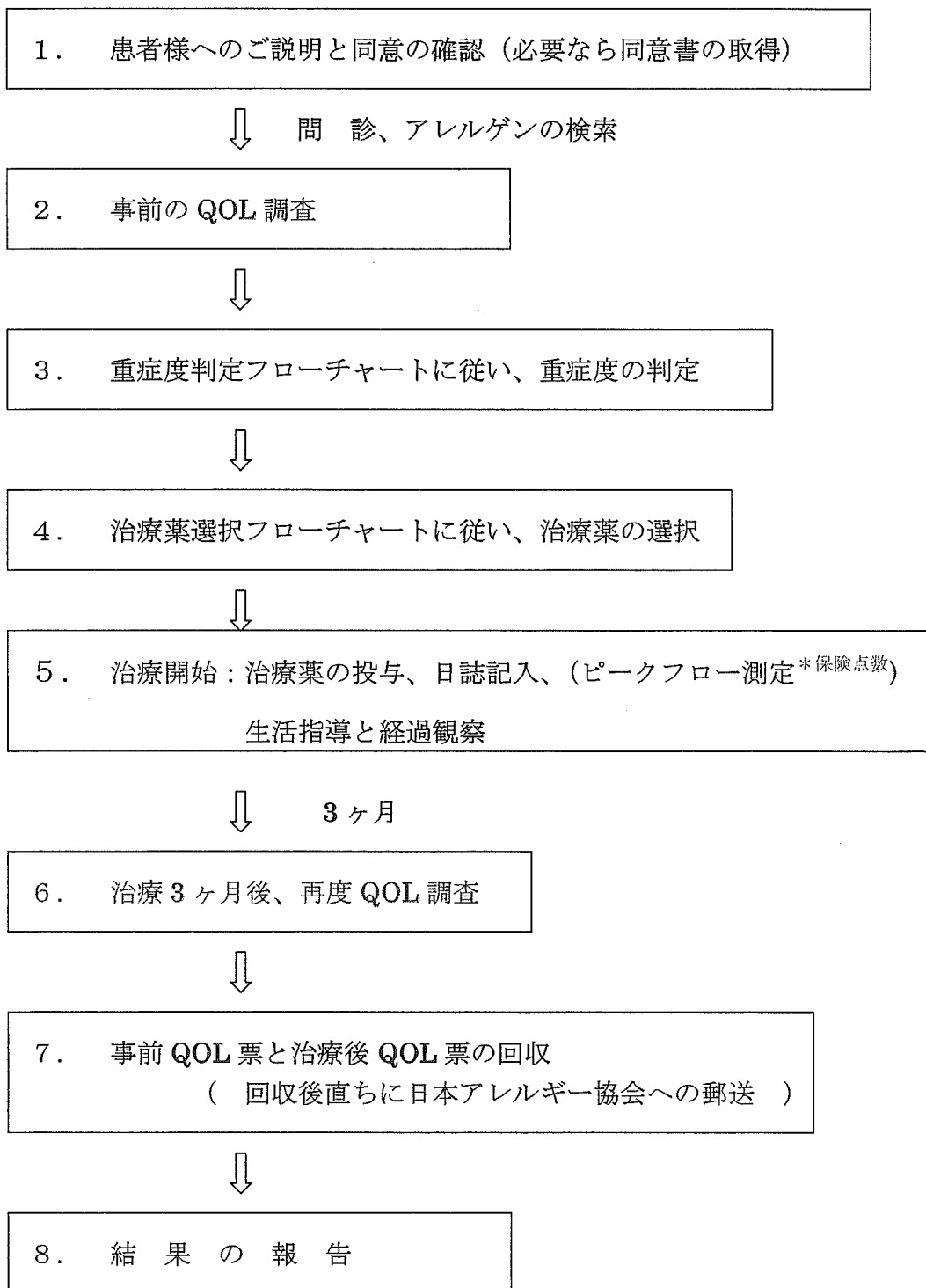


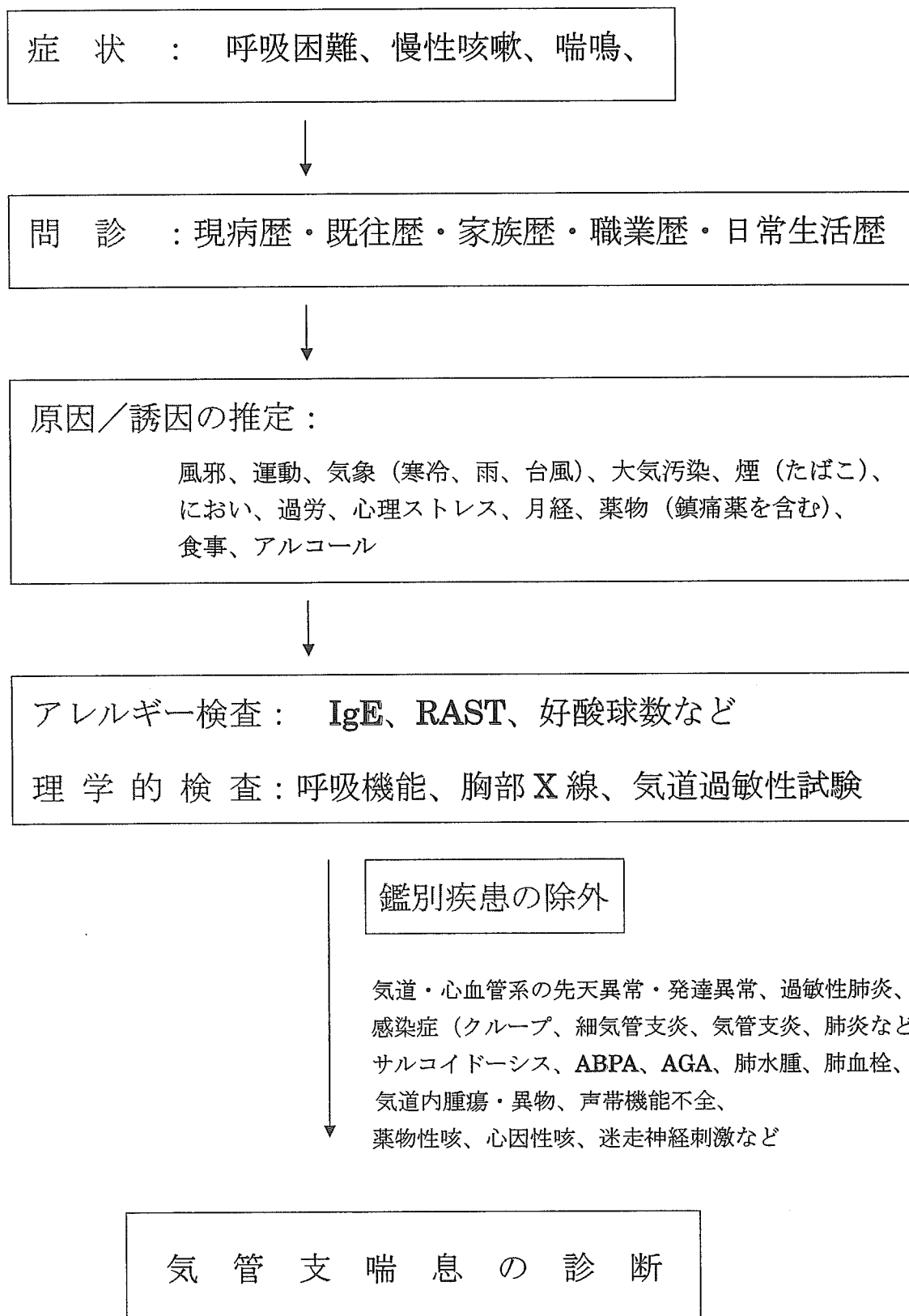
喘息・長期管理「ガイドライン実践プログラム」の手順



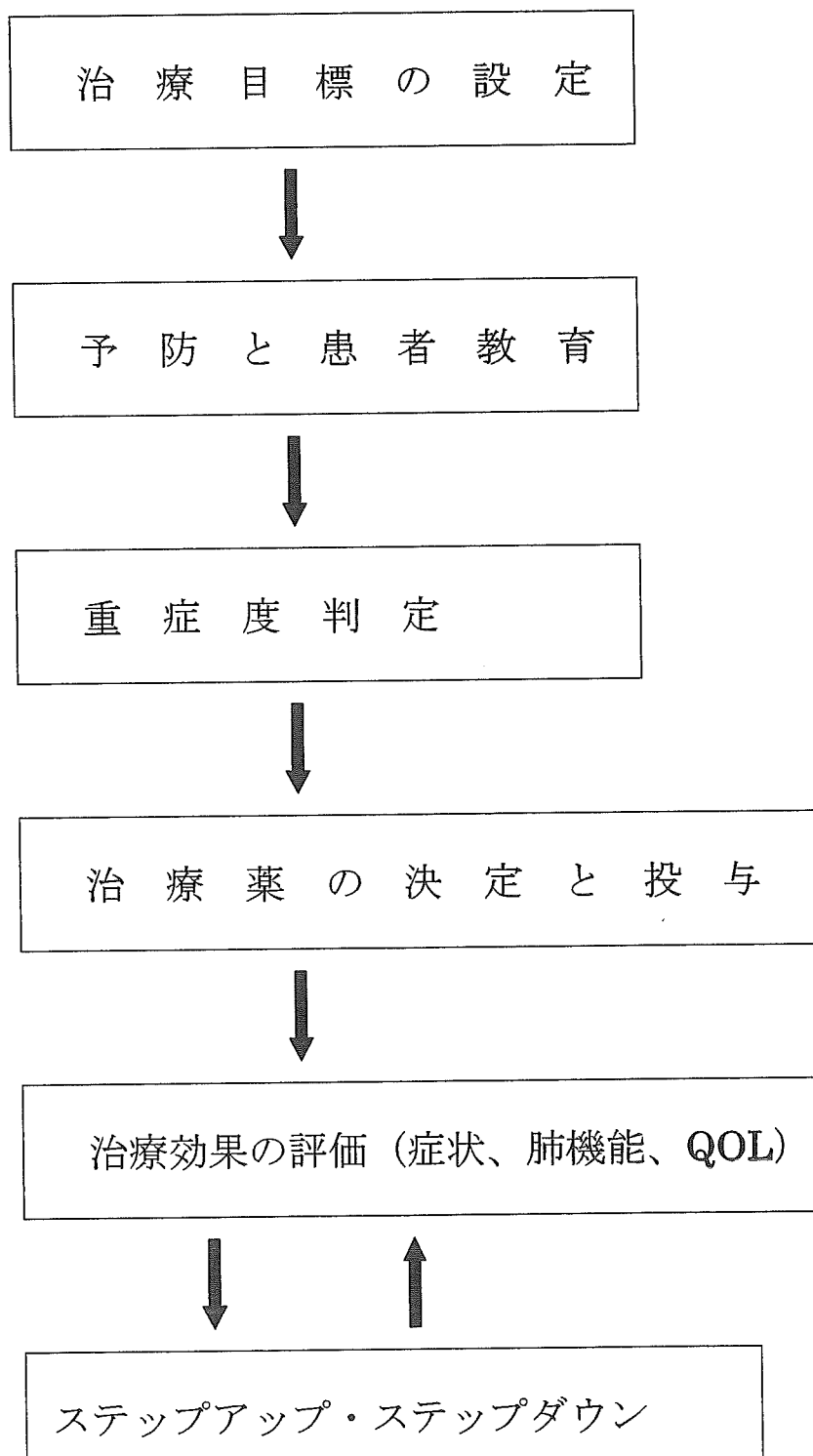
*ピークフローを用いて、計画的な医療管理を行いますと、喘息治療管理料が算定されます。

1月目(初回治療管理)：75点 2月目：25点

小児喘息の診断の目安



気管支喘息の治療・管理ガイドライン

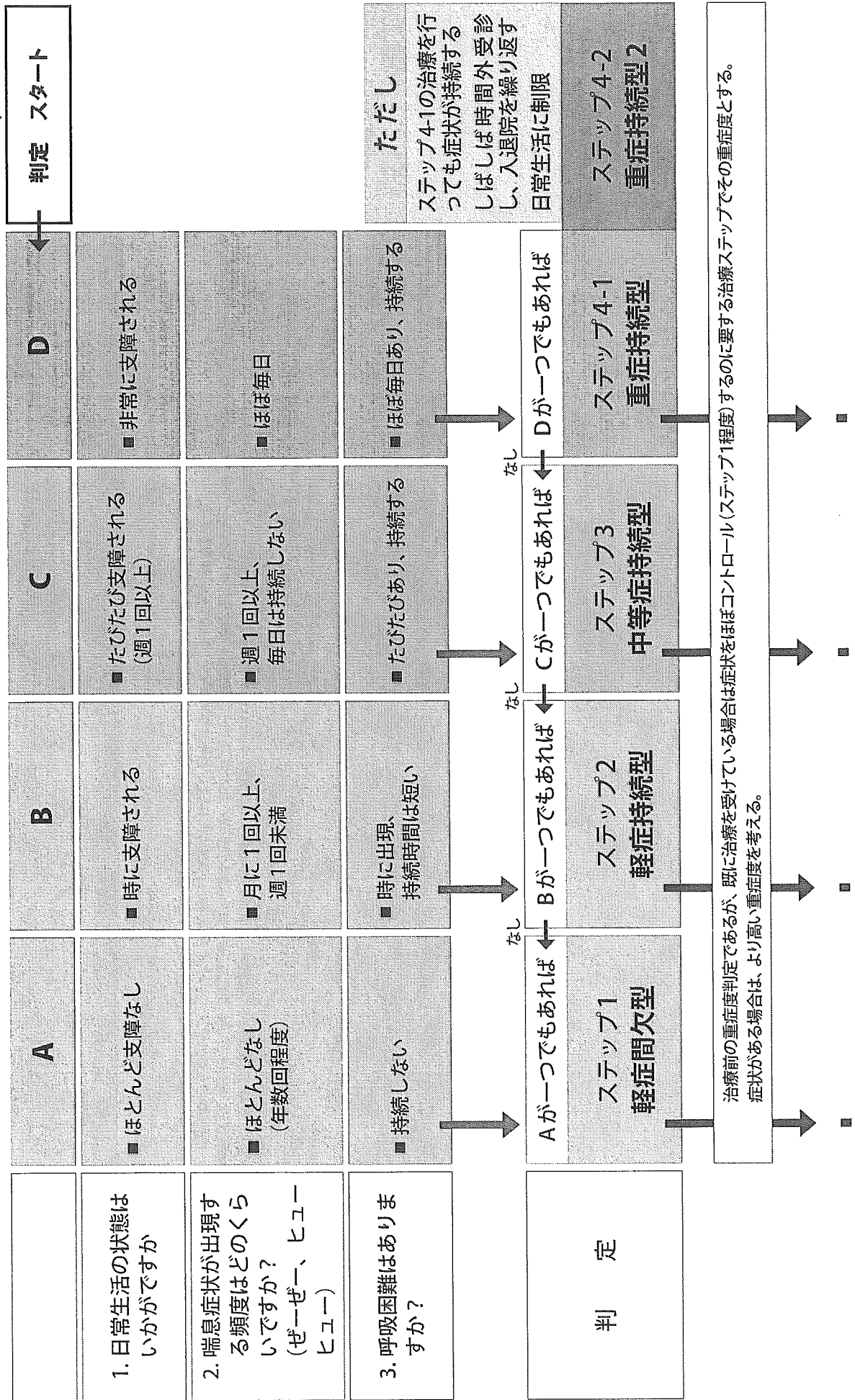


小児喘息の治療目標

1. (軽い)スポーツを含め日常生活を普通に行う
2. 昼夜を通じて症状がない
3. $\beta 2$ 刺激薬の頓用が減少、または必要がない
4. 学校を欠席しない
5. 肺機能がほぼ正常
6. **PEF** が安定している

小児喘息重症度判定表 (年長児 6歳~15歳)

該当する症状をチェックし、一番右側のチェックボックスから順に判定してください。(E→D→C→B→A)



治療薬の選定

	ステップ1 間欠型	ステップ2 軽症持続型	ステップ3 中等症持続型	ステップ4 重症持続型
基本治療	発作に応じた薬物療法	吸入ステロイド薬 ^{*2} (100 μg/日) あるいは 抗アレルギー薬 ^{*1}	吸入ステロイド薬 ^{*2} (100~200 μg/日)	吸入ステロイド薬 ^{*2*} (200~400 μg/日) 以下の1つまたは複数の併用 ・ロイコトリエン受容体拮抗薬 ・テオフィリン徐放製剤 ・長時間作用性吸入β ₂ 刺激薬 ・DSCG ・貼付β ₂ 刺激薬
追加治療	抗アレルギー薬 ^{*1}	テオフィリン徐放製剤	吸入ステロイド薬 ^{*2*} (200~400 μg/日) 以下の1つまたは複数の併用 ・ロイコトリエン受容体拮抗薬 ・テオフィリン徐放製剤 ・長時間作用性吸入β ₂ 刺激薬 ・DSCG ・貼付β ₂ 刺激薬	経口ステロイド薬 (短期間・間欠考慮)

*1 抗アレルギー薬: 化学伝達物質遊離抑制薬、ヒスタミンH₁拮抗薬、ロイコトリエン拮抗薬、Th2 サイトカイン阻害薬に分けられる。DSCG (インターール) と経口抗アレルギー薬を含む。

*2 吸入ステロイド薬: カ価はFP (プロピオン酸フルチカゾン: フルタイド) あるいはBDP (プロピオン酸ベクロメタゾン: キュバール) 換算とする。

*3 ステップ4の治療で症状のコントロールができていないものについては、専門医の管理のもとで経口ステロイド薬の投与を含む治療を行なう。

● 主な小児喘息長期管理薬

薬物の種類		投与方法	製品名
抗アレルギー薬	1. 化学伝達物質遊離抑制剤	経口・吸入	インターール、リザベン、ロメット、アレギサル、ペミラストン
	2. ヒスタミンH ₁ 拮抗薬	経口	セルテクト、ゼスラン、ニボラジン、サジテン
	3. ロイコトリエン受容体拮抗薬	経口	オノン、シングレア、キプレス
	4. Th2 サイトカイン阻害薬	経口	アイビーデー
テオフィリン徐放製剤		経口	ネオフィリン、テオドリップ、テオドール、テオロング
長時間作用性β ₂ 刺激薬		経口	ベネトリン、ブリカニール、ホクナリン、ペラチン、ペロテック、アトック、スピロベント
		吸入	アルプール、メプチン、ベネトリン、サルタノール、アイロミール、セレベント
吸入ステロイド薬		貼付	ホクナリンテープ
		吸入	キュバール(HFA-BDD)
経口ステロイド薬		吸入	フルタイド(HFA-FD)
		経口	ブレドニン、ブレドニゾロン、メドロール、リンデロン、デカドロン、デキサメサゾン、パラメゾン

主なアレルギー治療薬一覧

第1世代抗ヒスタミン薬	
エタノールアミン系	
レスタミン	錠、軟膏
レスタミンA	散
強カレスタミンコーチゾン	軟膏
ベナ	錠
ベナパスタ	軟膏
ハイスタミン	注
ダンリッチ	カプセル
プロコン	散、注
タベジール	錠、散、シロップ
ドラマミン	錠
マレイン酸クロルフェニラミン	散、シロップ
アレルギン	散
クロール・トリメトン	注
ネオレスタミン	散
ポララミン	錠、散、シロップ、注
レクリカ	錠、シロップ
ペネン	錠、シロップ
ピレチア	錠、散
ヒベルナ	錠、注
フェノチアジン系	
アリメジン	錠、散、シロップ
アンダントール	ゼリー
ピペラジン系	
ホモクロミン	錠
アタラックス	錠、注
アタラックスP	カプセル、散、シロップ
ピペリジン系	
ペリアクテン	錠、散、シロップ
第2世代抗ヒスタミン薬	
エバステル	錠
ジルテック	錠
レミカット	カプセル
ダレン	カプセル
タリオン	錠
アレグラ	錠
アレロック	錠
クラリチン	錠

抗アレルギー薬	
メディエーター遊離抑制薬	
インタール	カプセル、細粒、点眼、点鼻、吸入液、エアロゾル
リザベン	カプセル、細粒、シロップ、点眼
ソルファ	錠、点鼻
ロメット	錠、細粒
ケタス	カプセル
アレギサール	錠、シロップ、点眼
ペミラストン	錠、シロップ、点眼
タザノール	カプセル
タザレスト	カプセル
抗ヒスタミン薬系	
ザジテン	カプセル、シロップ、点眼、点鼻
アゼブチン	錠、細粒
セルテクト	錠、シロップ
ゼスラン	錠、細粒、シロップ
ニボラジン	錠、細粒、シロップ
アレジオン	錠、内服液
点鼻薬	
リボスチン	点鼻
トロンボキサンA2阻害薬	
ドメナン	錠
ベガ	錠
トロンボキサンA2拮抗薬	
プロニカ	錠、細粒
バイナス	錠
ロイコトリエン拮抗薬	
オノン	カプセル、シロップ
アコレート	錠
シングレア	錠、チュアブル
キブレス	錠、チュアブル
TH2サイトカイン阻害薬	
アイビーディー	カプセル、シロップ

副腎皮質ステロイド薬	
経口、注射、塗布	
コートン	錠
水溶性ハイドロコートン	錠、注
コートリル	錠
ソルコーテフ	注
サクシゾン	注
ブレドニゾン	錠、散、
ブレドニン	錠、水溶性、眼軟膏
メドロール	錠
デポ・メドロール	水懸性
ソル・メドロール	注
レダコート	錠、軟膏、注
ケナコルト-A	軟膏、注
オルガドロン	注、点眼、点耳
デカドロン	錠、注
コルソン	錠
リメタゾン	注
セレスタミン	錠
リンデロン	錠、散、シロップ、注 坐剤、点眼、
パラメゾン	錠
フロリネフ	錠
ハロアート	注
吸入用ステロイド薬	
キュバール	エアゾール
フルタイド	ロタディスク、ディスク
パルミコート	タービュヘラー
鼻用ステロイド薬	
リノコート	カプセル(パブライザー)
サルコート	カプセル(パブライザー)
シナクリン	点鼻液
フルナーゼ	点鼻液

気管支拡張薬	
交感神経β2刺激薬	
ボスミン	注、液
エフェドリン	錠、散、注
メチエフ	散、注
フェナミン	錠、散、注
メジヘラー	エアゾール
ストメリンD	エアゾール
プロタノール-L	注
アスプール	液
イソパール・P	カプセル
アロテック	錠、注、吸入液
イノリン	錠、散、シロップ、吸入液
ベネトリン	錠、シロップ、吸入液
アイミロール	エアゾール
サルタノール	インヘラー
ブリカニール	錠、シロップ、注
ホクナリン	錠、シロップ、テープ
ベラチン	錠、シロップ
メプチン	錠、ミニ錠、シロップ エア、吸入液
ベロテック	錠、シロップ、エロソル
アトック	錠、シロップ
スピロペント	錠、細粒
ブロンコリン	錠
セレベント	ロタディスク、ディスク
副交感神経遮断薬	
アトロベント	エロゾル
テルシガン	エロゾル
キサンチン誘導体	
テオドール	錠、顆粒、シロップ、
テオロング	錠、顆粒
スロービッド	カプセル、顆粒
ユニフィル	錠
ユニコン	錠
テオドリッブ	注
コルフィリン	注
ネオフィリンM	散、注
モノフィリン	錠、散、注
ネオフィリン	錠、散、注
アルピナ	坐剤
テオコリン	錠、散
アストモリジンD/M	錠合剤(腸溶/胃溶)
アストフィリン	錠合剤

分担研究報告書

鼻アレルギー診療ガイドライン普及のための対策とそれによる QOL 向上の研究

分担研究者 大久保公裕 日本医科大学耳鼻咽喉科助教授

研究要旨

アレルギー性鼻炎の診療ガイドラインは初め日本アレルギー学会によって作成されたが、現在では厚生労働省などの支援を受け、独立した作成委員会により作成されている。このガイドラインの特徴はEBM(evidence based medicine)に偏らず、実地医療を優先していることであり、海外のガイドラインと考えられている WHO のワークショップレポートであるARIA(Allergic Rhinitis its Impact on Asthma)がEBM 中心であることと大きく異なり、読みやすい。しかし、花粉症が国民的病気であることを考えるとまだガイドラインの普及率は小さく、その普及のための研究を行う。まず、ガイドラインの軸である診断と治療の内容からそれに則った簡便な表を作成し、ガイドラインの内容を分かりやすいものとするかどうかが一般開業医に対し、アレルギー協会主催の講演会で使用を呼びかけ、その普及を行った。

A. 研究目的

スギ花粉症を含むアレルギー性鼻炎は国民の20%以上が罹患していると推定されている。くしゃみ、鼻漏、鼻閉などの症状によって患者のQOLは著しく低下する。特に花粉症では就業、勉学といった日常生活に支障をきたすことから社会問題にもなっている。従来医療では診察によって医師が患者の理学的所見から重症度や治療効果を判定してきた。しかし、このような一方的な評価方法では、特に花粉症のような致死的でない疾患においては患者のための医療とは言えない時代になってきた。そこで、患者の生活全体を含めた状況をよりの確に反映するためにQOLを考慮した医療の確立が期待されている。

日本アレルギー性鼻炎標準調査票2002(JRQLQ)は、鼻・眼の症状をI、日常生活、戸外活動、社会生活、睡眠、身体機能、精神生活の6つの領域をIIとして作成している。このパートIIは全部で17個のQOL質問項目よりなっている。またIIIとして総括的狀態のフェイススケールをつけて

ある。今回このQOLを向上させるために鼻アレルギー診療ガイドラインの普及を目的とした。現在の鼻アレルギー診療ガイドラインは2005年版が出版されているが、一般診療医ではなかなか全体を通して診療の参考にはできない。このため今年度の研究はこの鼻アレルギー診療ガイドラインの診断と治療について判り易い図表を作成し、QOL向上に寄与できるか検討した。

B. 方法

鼻アレルギー診療ガイドラインにある診断と治療を一覧表にすることにした。診断は問診からアレルギー症状を聞き取り、確認を最も頻用されている特異的IgE検査で行なうこととした。またIgEの陽性が認められない場合には鼻汁好酸球検査でさらに確定診断を行なう。治療は鼻アレルギー診療ガイドラインにある治療法の選択を簡易化し、くしゃみ・鼻汁型、鼻閉型にわけてそれぞれ抗ヒスタミン薬と抗ロイコトリエン薬を経口薬の主体に鼻噴霧用ステロイド薬を上乗せの局所用薬として記載した。

とは非常に好評であり、一般臨床医にとって有益と考えられた。QOL向上の結果はまだ出ていないが、正しくガイドラインを要約できているとすれば、QOL向上に繋がると推測できる。

E. 結論

花粉症を含むアレルギー性鼻炎は QOL の低下する疾患であり、その評価には特異性のある QOL 質問表 JRQLQ などの使用が好ましい。鼻アレルギー診療ガイドラインの診断と治療について判り易い図表を作成し、JRQLQ を用いてガイドライン準拠による QOL 向上を目標とした。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

著書

1. 大久保公裕：第2章、免疫、病気が分かるからだのビジュアル百科、服部光男岡島重孝監修、pp47-60、小学館、東京 2005
2. 大久保公裕：第5章、感覚器、病気が分かるからだのビジュアル百科、服部光男岡島重孝監修、pp251-276、小学館、東京 2005

論文

1. Gotoh M, Okubo K: Sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis. *Allergy International* 54: 167-171, 2005.
2. Okuda M, Okubo K, Goto M, Okamoto Y, Konno A, Baba K, Ogino S, Enomoto M, Imai T, So N, Ishikawa Y, Takenaka Y, Mandai T, Crawford B: Comparative study of two Japanese rhinoconjunctivitis quality-of-life questionnaires. *Acta Oto-Laryngologica* 125: 10. 736-744, 2005

3. Gotoh M, Okubo K, Okuda M: Inhibitory effects of facemasks and eyeglasses on invasion of pollen particles in the nose and eye: clinical study. *Rhinology* 43, 8: 266-270, 2005.
4. 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の QOL について－抗ロイコトリエン剤の有効性－. *日気食会報* 56. 2(4月): 194-196, 2005.
5. 後藤穰, 大久保公裕：アレルギー性鼻炎のかゆみの成因と治療. *アレルギー科* 19.4: 360-364, 2005.
6. 大久保公裕：ARIA と PG-MARJ2005. *Prog Med* 25.10: 2741-2747, 2005.
7. 奥田稔, 大久保公裕, 後藤穰：鼻正常者の鼻症状. *アレルギー* 54.6: 551-554, 2005.
8. 奥田稔, 大久保公裕, 後藤穰, 石田祐子：空中スギ花粉の着衣、皮膚への付着. *アレルギー* 54.6: 555-558, 2005.
9. 奥田稔, 大久保公裕, 後藤穰, 石田祐子：季節前スギ花粉症の高率発症への疑問－鼻内スギ花粉数の測定から. *アレルギー* 54.7: 636-640, 2005.
10. 今井透, 藤倉輝道, 新井寧子, 余田敬子, 北島整, 相田瑞江, 小津千佳, 酒主敦子, 大久保公裕, 森山寛, 遠藤朝彦, 宇井直也, 吉村剛：2005年のスギ花粉症に対するラマトロバンと抗ヒスタミン薬の併用効果－QOL 調査－. *耳鼻咽喉科展望* 48. 6. 12月: 427-438, 2005.

総説

1. 大久保公裕：アレルギー性鼻炎・花粉症. *医学と薬学* 55.2: 177-182, 2006.
2. 大久保公裕：スギ花粉症の舌下免疫療法. *感染炎症免疫* 35.2: 162-163, 2006.
3. 大久保公裕：アレルギー性鼻炎. *JOHNS* 21.9: 1287-1290, 2005.
4. 大久保公裕：スギ花粉症の薬物療法のポイント. *PTM* 12.1, 2006.

5. 大久保公裕：新しい薬剤開発の動向.
MB ENT57.12: 58-63, 2005
 6. 大久保公裕、後藤穰：花粉症. 日本臨床 63 増刊 5: 145-150, 2005.
 7. 大久保公裕：花粉症に対する抗 IgE 抗体療法. Medical Science Digest31.13: 527-529, 2005
 8. 大久保公裕、奥田稔：花粉症を含むアレルギー性鼻炎の疫学. アレルギーの臨床 26.1: 23-26, 2006.
 9. 大久保公裕：免疫療法の実際 2.花粉症・アレルギー性鼻炎. アレルギーの臨床 26.3: 194-200, 2006.
 10. 大久保公裕、大西正樹：アレルギー性鼻炎(花粉症)に対する鼻噴霧用ステロイド薬治療の EBM アレルギーの臨床 25.11: 871-875, 2005.
 11. 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の近未来の治療戦略. Q&A でわかるアレルギー疾患 1(3). 10: 238- 239, 2005.
 12. 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の QOL. 東京都医師会雑誌 59.3: 11-16, 2006.
2. 学会発表
1. Okubo K, Gotoh M, Okuda M: Epinastine hydrochloride protects the nasal reactivity by provocation tests with Japanese cedar pollen allergen better than placebo and fexofenadine hydrochloride. 19th World Allergy Congress, June, 2005, Munch, Germany
 2. 大久保公裕：生物製剤（抗 IgE を中心に）シンポジウム 14 期待されるアレルギー疾患の治療戦略. 第 17 回日本アレルギー学会春季臨床大会（岡山）2005. 4
 3. 奥田稔、大久保公裕、後藤穰：季節前スギ花粉症の発症. 第 17 回日本アレルギー学会春季臨床大会（岡山）2005. 4
 4. 大久保公裕：免疫療法の展望. 教育パネル. アレルギー性鼻炎の新しい免疫療法. 第 44 回日本鼻科学会（大阪）2005. 9
 5. 大久保公裕：アレルギー疾患における抗ヒスタミン薬の使用法（耳鼻咽喉科の立場から）教育セミナー5. 第 55 回日本アレルギー学会（盛岡）2005. 10
 6. 後藤穰、大久保公裕、島田健一、奥田稔：花粉症に対する舌下免疫療法（液剤）シンポジウム 18 耳鼻咽喉科領域における免疫寛容・減感作療法の最前線. 第 55 回日本アレルギー学会（盛岡）2005. 10
 7. 今井透、大久保公裕、藤倉輝道、相田瑞江、小津千佳、酒主敦子、遠藤朝彦、宇井直也、吉村剛：2005 年のスギ花粉症に対するラマトロバンと抗ヒスタミン薬の併用効果. 第 55 回日本アレルギー学会（盛岡）2005. 10
 8. 後藤穰、大久保公裕、島田健一、奥田稔：スギ花粉症に対する舌下免疫療法. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（鳥羽）2006. 3
 9. 大久保公裕：花粉症の発症の予防と治療. 公開講座. 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（鳥羽）2006. 3
- H. 知的財産の出願・登録状況
1. 抗原暴露室システム
国際出願番号 PCT/JP2005/017865
9月28日
 2. 抗原暴露室の抗原供給装置
国際出願番号 PCT/JP2005/017866
9月28日
 3. 抗原暴露室およびその洗浄・乾燥方法
国際出願番号 PCT/JP2005/017867
9月28日

アレルギー性鼻炎 診療ガイドライン実践プログラム

2005 年

日本アレルギー協会

本プログラムに関するお問い合わせ先
財団法人日本アレルギー協会事務局
アレルギーガイドライン実践プログラム担当
〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-5-11 富士ビル 4 階
電話：03-3222-3437 Fax：03-3222-3438
mail：staff@jaanet.org
電話問い合わせ受付時間： 月、木 9:00~16:00
お問い合わせは、なるべくメールでお願いします。

「ガイドライン実践プログラム」へのご協力のお願い

日本アレルギー協会
アレルギー研修会担当理事
富岡 玖夫
主任研究者：JAANet 編集委員長
須甲 松信

近年、アレルギー疾患患者は増加の一途を辿り、医療を超えて社会的、経済的にも大きな問題となっております。この事態に対して、厚生労働省は今後の基本的対策として次のような目標を定めています。

- (1) 患者家族への自己管理手法の普及と相談体制の確保、
- (2) アレルギー診療ガイドラインの制定とその普及、
- (3) 「かかりつけ医」を中心とした医療体制の確立、
- (4) 学会認定のアレルギー専門医の育成と専門医療機関の確保、
- (5) 看護師・薬剤師・管理栄養士などの医療関係者の教育、
- (6) 適格なアレルギー情報の収集と提供など。

そして、その実現のためには患者団体、日本医師会、日本アレルギー学会等関係団体および関係省庁と連携してアレルギー対策を推進することが必要であるとも強調しております。これらの目標のうち注目すべき点は、アレルギー診療体制における「かかりつけ医」の位置づけを明確にしていることです。すなわち、アレルギー患者が安定期にある時には身近な「かかりつけ医」が診療し、重症難治例や著しい増悪時には専門医療機関が対応するという内容です。そのためには「かかりつけ医」の先生方にアレルギー診療にも精通していただき、専門医療機関との病診連携体制を確立することが期待されています。

厚生労働省管轄の財団法人である日本アレルギー協会は、昭和42年の設立以来、わが国のアレルギー疾患に関する多くの啓発事業を展開し、平成11年からは「かかりつけ医」を担われる実地医家の先生方を対象に、全国各地において日本医師会のご協力を得て生涯教育の一環となる「アレルギー研修会」を開催して、アレルギーの診療ガイドラインの啓発・普及に力を入れてまいりました。

今年度からは「アレルギー研修会」をより充実した内容にするため、ご出席頂いた実地医家の先生方が診療の場に戻られて、実際にアレルギー患者様にガイドラインに即した診療をして頂けるように支援する「ガイドライン実践プログラム」を作成いたしました。このプログラムは、成人喘息、小児喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患に対応して以下の要点から成っております。

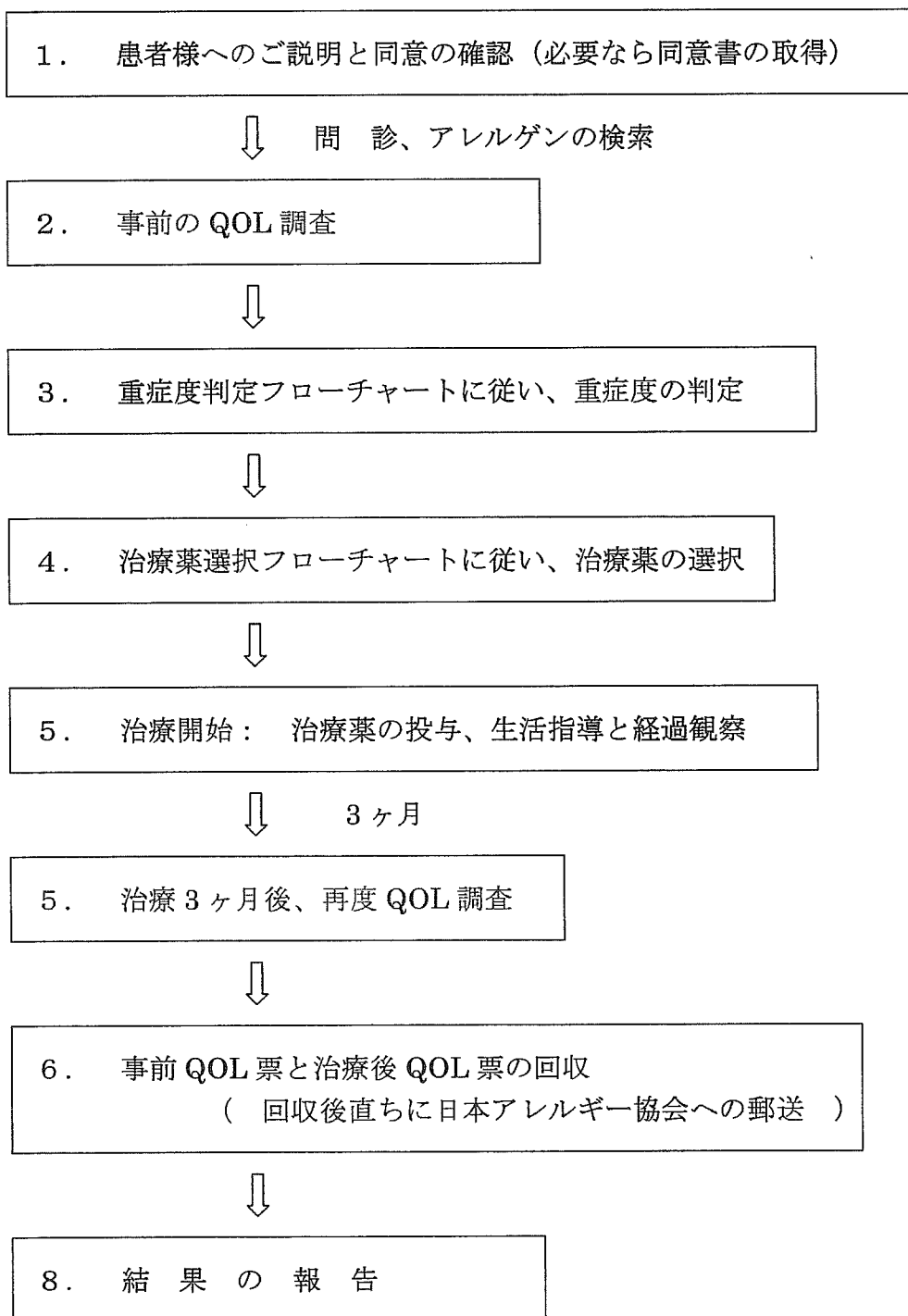
1. 診療ガイドラインの重症度判定フローチャートおよび治療選択フローチャートを利用した患者様の長期管理。
2. 定期的な患者様 QOL 調査。
3. ガイドラインおよび実践プログラムに関するアンケート調査。

これは、フローチャートに従い患者様の重症度に合わせて治療（薬）を選択していただき、それが患者様の QOL の向上に役立ったかどうかをご評価いただく内容になっております。このプログラムにご参加いただくと、診療ガイドラインが実践され、一層ご理解が深まるものと確信いたしております。

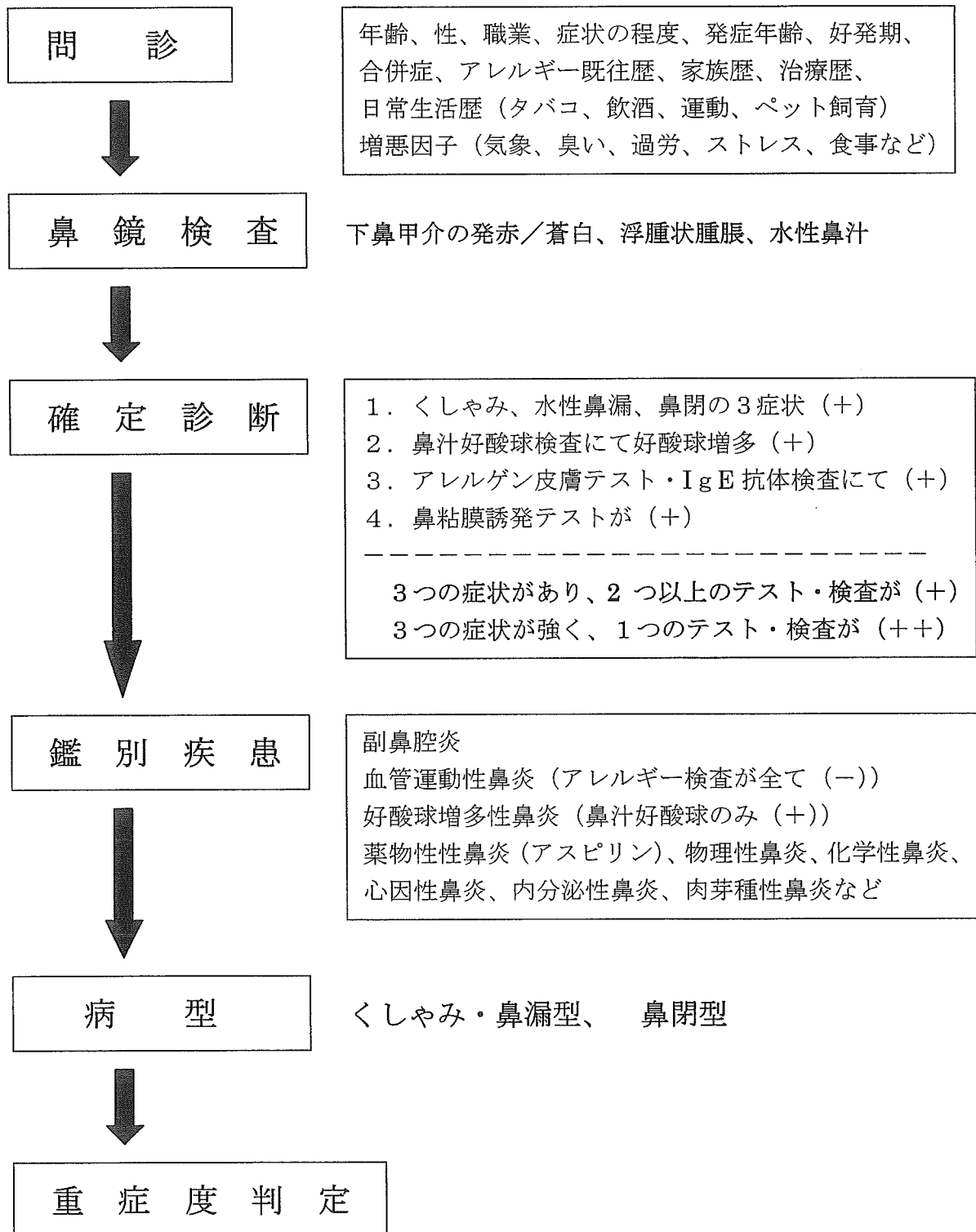
つきましては、この「ガイドライン実践プログラム」へのご参加のご協力を切にお願いするものであります。

なお、集計結果についてはご協力を頂いた先生方、地区医師会様に還元いたすとともに関連学会、厚生労働省に報告する予定であります。

アレルギー性鼻炎「ガイドライン実践プログラム」の手順

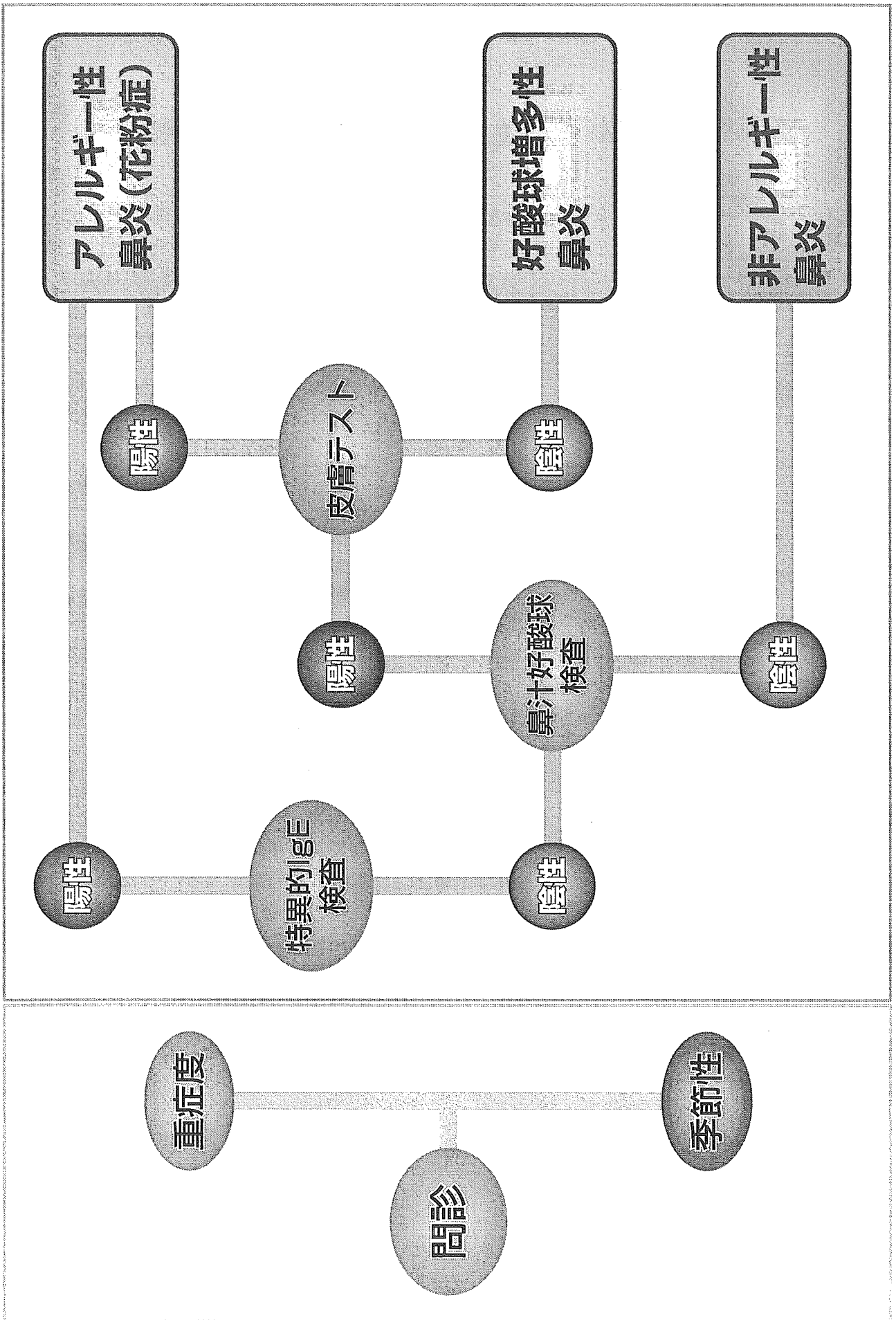


アレルギー性鼻炎の診断・治療の手順



— 花粉症を含むアレルギー性鼻炎の診断 —

制作：財団法人 日本アレルギー協会
 監修：日本医科大学 耳鼻咽喉科 大久保 公裕



アレルギー性鼻炎の治療

制作：財団法人 日本アレルギー協会
監修：日本医科大学 耳鼻咽喉科 大久保 公裕

くしゃみや発作または鼻漏（くしゃみやみか鼻漏の強い方）

病型および重症度		1日の平均発作回数・平均擤鼻回数				
		0	5~1回	10~6回	20~11回	21回以上
鼻閉	なし	-	+	++	+++	++++
	口呼吸はまっ たかないが 鼻閉あり	-	+	++	+++	++++
	鼻閉が強く 口呼吸が 1日のうち とどききあり	+	++	+++	++++	+++++
	鼻閉が非常に 強く、口呼吸 が1日のうち かなりの時間 が長い	++	+++	++++	+++++	++++++
	1日中完全に つまっている	+++	++++	+++++	++++++	++++++
		無症状	軽症	軽症	中等症	重症
		①第2世代 抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ①②いずれか一つ	①第2世代 抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ①②いずれか一つ	①第2世代 抗ヒスタミン薬 ②遊離抑制薬 ③局所ステロイド薬 いずれか一つ ①または②に③を 併用	局所ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬	局所ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬
		①ロイコトリエン拮抗薬 ②局所ステロイド薬 ①②いずれか一つ または併用	①ロイコトリエン拮抗薬 ②局所ステロイド薬 ①②いずれか一つ または併用	局所ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬	局所ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬	局所ステロイド薬 + 第2世代 抗ヒスタミン薬
		局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬	局所ステロイド薬+ロイコトリエン拮抗薬
		鼻閉型	中等症	中等症	重症	最重症
						くしゃみやみ ・鼻漏型

主なアレルギー治療薬一覧

抗ヒスタミン薬		抗アレルギー薬	
エタノールアミン系		メチルエーテル遊離抑制薬	
レスタミン	錠、軟膏	インタール	カプセル、細粒、点眼、 点鼻、吸入液、エアロゾル
レスタミンA	散		
強カレスタミンコーチゾン	軟膏	リザベン	カプセル、細粒、シロップ
ベナ	錠		点眼
ベナパスタ	軟膏	ソルファ	錠、点鼻
ハイスタミン	注	ロメット	錠、細粒
ダンリッチ	カプセル	ケタス	カプセル
プロコン	散、注	アレギサール	錠、シロップ、点眼
タベジール	錠、散、シロップ	ペミラストン	錠、シロップ、点眼
ドラマミン	錠	タザノール	カプセル
マレイン酸クロルフェニラミン	散、シロップ	タザレスト	カプセル
アレルギン	散	ヒスタミンH ₁ 拮抗薬	
クロール・トリメトン	注	ザジテン	カプセル、シロップ
ネオレスタミン	散		点眼、点鼻
ポララミン	錠、散、シロップ、注	アゼプチン	錠、細粒
レクリカ	錠、シロップ	セルテクト	錠、シロップ
ベネン	錠、シロップ	ゼスラン	錠、細粒、シロップ
ピレチア	錠、散	ニボラジン	錠、細粒、シロップ
ヒベルナ	錠、注	アレグラ	錠
フェノチアジン系		ダレン	カプセル
アリメジン	錠、散、シロップ	レミカット	カプセル
アンダントール	ゼリー	アレジオン	錠、内服液
ピペラジン系		エバステル	錠
ホモクロミン	錠	ジルテック	錠
アタラックス	錠、注	タリオン	錠
アタラックスP	カプセル、散、シロップ	アレロック	錠
ピペリジン系		クラリチン	錠
ペリアクチン	錠、散、シロップ	トロンボキササンA ₂ 阻害薬	
点鼻薬		ドメナン	錠
リボスチン	点鼻	ベガ	錠
		トロンボキササンA ₂ 拮抗薬	
		プロニカ	錠、細粒
		バイナス	錠
		ロイコトリエン拮抗薬	
		オノン	カプセル、シロップ
		アコレート	錠
		シングレア	錠、チュアブル
		キブレス	錠、チュアブル
		TH ₂ サイトカイン阻害薬	
		アイピーディー	カプセル、シロップ

副腎皮質ステロイド薬

経口、注射、塗布		吸入用ステロイド薬	
コートン	錠	ベコタイド	インヘラー、エアゾール
水溶性ハイドロコートン	錠、注	アルデシン	
コートリル		キュバール	
ソルコーテフ	注	フルタイド	ロタディスク、ディスクス
サクシゾン	注	パルミコート	タービュヘラー
プレドニゾン	錠、散、		
プレドニン	錠、水溶性、眼軟膏		
メドロール	錠	鼻用ステロイド薬	
デボ・メドロール	水懸性	ベコナーゼ	エアゾール
ソル・メドロール	注	アルデシン	エアゾール
レダコート	錠、軟膏、注	アルデシンAQネーザル	エアゾール
ケナコルトーA	軟膏、注	リノコート	カプセル(パブライザー)
オルガドロン	注、点眼、点耳	サルコート	カプセル(パブライザー)
デカドロン	錠、注	シナクリン	点鼻液
コルゾン	錠	フルナーゼ	点鼻液
リメタゾン	注		
セレスタミン	錠		
リンデロン	錠、散、シロップ、注		
	坐剤、点眼、		
パラメゾン	錠		
フロリネフ	錠		
ハロアート	注		

気管支拡張薬

交感神経β ₂ 刺激薬		キサンチン誘導体	
ボスミン	注、液	テオドール	錠、顆粒、シロップ、
エフェドリン	錠、散、注	テオロング	錠、顆粒
メチエフ	散、注	スローピッド	カプセル、顆粒
フェナミン	錠、散、注	ユニフィル	錠
メジヘラー	エアゾール	ユニコン	錠
ストメリンD	エアゾール	テオドリップ	注
プロタノール-L	注		
アスプール	液	コルフィリン	注
イソパール・S	カプセル	ネオフィリンM	散、注
アロテック	錠、注、吸入液	モノフィリン	錠、散、注
イノリン	錠、散、シロップ、吸入液	ネオフィリン	錠、散、注
ベネトリン	錠、シロップ、吸入液	アルピナ	坐剤
サルタノール	インヘラー	テオコリン	錠、散
アイミロール	エアゾール	アストモリジンD/M	錠合剤(腸溶/胃溶)
ブリカニール	錠、シロップ、注	アストフィリン	錠合剤
レアノール	錠		
ホクナリン	錠、シロップ、テープ		
ベラチン	錠、シロップ		
メプチン	錠、ミニ錠、シロップ		
	エアー、吸入液		
ベロテック	錠、シロップ、エロゾル		
アトック	錠、シロップ		
スピロペント	錠、細粒		
ブロンコリン	錠		
セレベント	ロタディスク、ディスクス		
副交感神経遮断薬			
アトロペント	エロゾル		
フルブロン	エアゾル		
テルシガン	エロゾル		